

久喜市立郷土資料館だより

ふ え ね 笛の音 第6号



鷺宮催馬楽神楽 鷺宮神社年越祭の様子 (平成 30 年 2 月 14 日)

鷺宮神社の年越祭にあわせ、国指定重要無形民俗文化財「鷺宮催馬楽神楽」の奉納が行われました。神楽の奉納は年 6 回、神社の神楽殿で行われています。時間は午前 11 時頃から午後 3 時頃までです。1 月 1 日は昼だけでなく、午前 0 時～午前 2 時頃 (12 月 31 日夜中) にも行われます。また、4 月 15 日には市内の八甫地区にある鷺宮神社でも奉納が行われ、「外あまつくに天津国津つぎつね狐の之舞」という演目が行われます。

◆ 神 楽 の 日 程 ◆

- 1 月 1 日…………… (歳旦祭)
- 2 月 1 4 日…………… (年越祭)
- 4 月 1 0 日…………… (春季崇敬者大祭)
- 7 月 3 1 日…………… (夏越祭)
- 1 0 月 1 0 日…………… (秋季崇敬者大祭)
- 1 2 月初西日…………… (大酉祭)

目 次

- 神楽の世界⑥江戸時代の神楽 (後編) …… 2
- 久喜ゆかりの人物 安積得也…………… 2
- 小学生向けワークシート配布中…………… 3
- 学芸員実習の受け入れについて…………… 3
- お知らせ情報…………… 4

神楽の世界 ⑥ 江戸時代の神楽（後編）

鷺宮神社の神楽は、享保11年（1726）に大宮司大内国久（1680～1740）が記した「土師一流催馬楽神楽歌実録」の写本が伝えられていることから、この頃までに現在の12座に編成されたと考えられています。また、天保期（1830～43）には、大宮司大内国政（1812～44）によって神楽の歴史と12座の詳細を記録した「鷺宮古式神楽正録」（「鷺宮旧正録」）が書かれています（『笛の音』第5号、「神楽の世界⑤ 江戸時代の神楽（中編）」参照）。

天保期の神楽を物語るものに、天保10年（1839）に建立された「永代大々御神楽」の石碑があります。この石碑は、大内国政が天保8年（1837）の臨時神楽の経緯について記したものです。碑文を意識すると、「鷺宮大明神を深く信仰する27人の人々は、祝部の小山政房・坪井勝則に従って毎年神楽を奉納していた。人々は、大御神の御心をやすめようと勸進を始め、一昨年（天保8年）の9月10日に臨時神楽を奉納した。この時、境内に集まった人は69人にもおよんだ。これからも9月10日の神楽奉納が続くように、今回の

経緯を大宮司国政が人々に代わって記した。」とあります。石碑の裏面には、講元の小山勘解由をはじめとする69人の名前が彫られています。

この臨時神楽の翌年には、「鷺宮大明神日御供講」が組織されています。講は「永代日御供太々神楽講中執立連名仮帳」（島村家文書No.577）によると、毎朝・毎月の神事を行い、毎年9月11日に永代神楽を執行するとし、神楽を中心とした鷺宮神社の信仰者で構成されました。講の世話人は、小山勘解由解を含む8人で、いずれも鷺宮神社の社家や神楽役などを務める人々でした。

このように、天保期には鷺宮神社周辺の人々によって神楽講が組織化されました。また、天保8年の臨時神楽の奉納から神楽講の組織化、「永代大々御神楽」石碑の建立という過程において、大内国政の「鷺宮古式神楽正録」は、鷺宮神社の信仰者に神楽を伝播させる意図をもって執筆されたものとも考えられています。

（郷土資料館学芸員 巻島 千明）

久喜ゆかりの人物

安積 得也

明治33年（1900）～平成6年（1994）

安積得也は、明治33年（1900）に東京の深川で生まれました。2歳の時に父を亡くし、6歳で桜田村大字上川崎（現久喜市上川崎）の母の実家に移り住みました。桜田村で少年時代を過ごした得也は、桜田尋常小学校（現桜田小学校）を卒業し、粕壁中学校（現春日部高等学校）、第一高等学校（現東京大学教養学部）を経て、東京帝国大学（現東京大学）法学部に進学しました。大学卒業後は内務省に入省し、内務官僚として栃木県知事や岡山県知事などの要職を歴任しました。

一方で詩人や社会評論家としても活躍しました。得也の『詩集 一人のために』は、昭和28年（1953）の出版以来、度々重版され、現在でも多くの人々に読まれています。得也の詩や随筆には、人間の可能性を信じ、人生は永遠の途中であるとする「未見の我」という考えが根底にあります。この未見の我という考えは、得也が中学1年生の時にカンニングの濡れ衣に

よって赤面恐怖症となり、悩みぬいた末に「自分の中にはまだ見ぬ自分がいる」と考え、自らの可能性を信じて心の支えとしたものです。

得也は、第一高等学校への進学を機に桜田村を離れますが、後に母校である桜田小学校をはじめ、江面第二小学校・菖蒲南中学校・鷺宮中学校の市内4校の校歌を作詞しています。子どもたちの限りない可能性に期待する得也の歌詞は、今もなお子どもたちによって歌い継がれています。



安積得也の随筆『未見への出発』
（昭和12年、当館蔵）

（郷土資料館学芸員 巻島 千明）

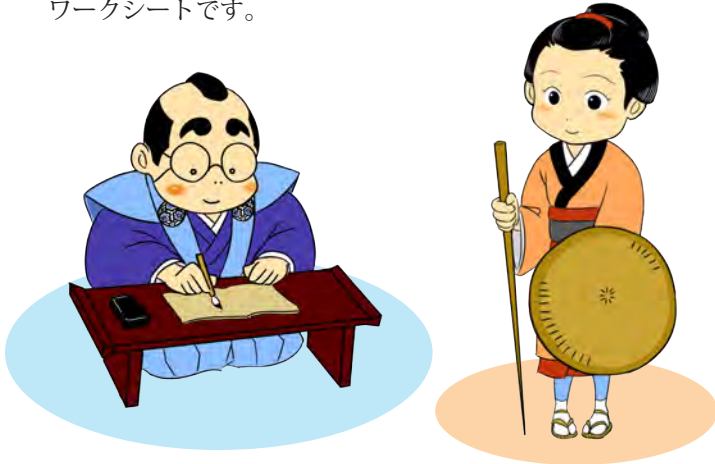
小学生向け

ワークシート配布中!

郷土資料館では小学生向けにワークシートを配布中です。お子様はもちろん、大人の方もワークシートを片手に資料館の展示をご覧ください。

「教えて!番士くん」ワークシート

栗橋関所の役割や関所手形について学ぶことができるワークシートです。



「ちょっとむかしの道具たち」ワークシート

郷土資料館収蔵品展「ちょっとむかしの道具たち」の内容にあわせたワークシートです。昭和30年代の民具を中心に、昔の道具について学ぶことができます。



学芸員実習の受け入れについて

郷土資料館では毎年、学芸員資格取得を目指す大学生の学芸員実習生を受け入れています。実習は例年7月から9月の間に行われ、実習期間は2週間程度です。実習内容は毎年変わりますが、主に資料館に寄贈された資料の整理や展示キャプションの作成、収蔵資料を用いたスポット展示などの実習を行います。



キャプション作成をする実習生



実習生によるスポット展示の様子

平成29年度は久喜ゆかりの偉人本多静六博士(『笛の音』第3号で紹介しました)に関する資料の整理を行い、整理した古写真を用いてスポット展示を行いました。

平成30年度も受け入れを予定しています(久喜市のホームページに実習の案内を掲載しています。URL:http://www.city.kuki.lg.jp/miryoku/rekishi_bunkazai/kyodoshiryokan/gakugeiinjissu.html)。さらに詳しくお知りになりたい方は、お気軽に郷土資料館までお問合せください。

収蔵品展「ちょっとむかしの道具たち」

平成30年1月27日(土)～3月31日(土)

昭和30年代の民具を中心に、昔の道具を紹介しています。はじめて見る道具や懐かしい道具たちの展示をぜひご覧ください。



会 場 郷土資料館展示室2

休 館 日 月曜日、2月23日(金)、3月22日(木)、
3月30日(金)

開館時間 午前10時～午後6時

東部地区文化財担当者会巡回展「埼玉県東部の交通」

平成30年2月3日(土)～3月18日(日)

明治時代以降、川舟から鉄道へと移り変わっていった県東部地区の交通の変遷について、パネルを中心に紹介しています。

会 場 郷土資料館展示ホール

開館時間 午前10時～午後6時

休 館 日 月曜日、2月23日(金)、3月22日(木)、
3月30日(金)

平成29年度文化財講座 参加者募集

久喜市内に伝わる獅子舞について、専門家からお話いただきます。

対 象 市内在住・在勤・在学者

定 員 40人(申込順)

場 所 郷土資料館視聴覚ホール

申 込 日 3月12日(月)8時30分から

日 時 平成30年3月24日(土)
午後1時30分～午後2時(受付午後1時から)

直接または電話・Eメールで、教育委員会文化財保護課文化財・歴史資料係
(TEL:0480-22-5555/内線:383)

講 師 板垣時夫さん

(白岡市教育委員会生涯学習課主任専門員)

Eメール:bunka@city.kuki.lg.jp

※郷土資料館では申込みを受け付けていません。



電車で

- 東武伊勢崎線 鷺宮駅下車 徒歩15分
- JR宇都宮線 東鷺宮駅下車「豊野コミュニティセンター」行きバス「図書館入口」下車 徒歩2分

自動車

- 東北自動車道 加須インターから10分
久喜インターから25分

久喜市立郷土資料館だより

笛の音

第6号

発行 平成30年(2018)3月13日

久喜市立郷土資料館

〒340-0217

埼玉県久喜市鷺宮5-33-1

電話 0480-57-1200

e-mail kyodoshiryokan@city.kuki.lg.jp

URL http://www.city.kuki.lg.jp/

開館時間 午前10時～午後6時

休館日 月曜日(祝日除く)、年末年始、
祝日の翌日、月末金曜日

入館料 無料

※有料の特別展を開催する場合があります